

(巻末資料 1) 「学校を支える地域と社会教育」に関する取組事例

第 1 章 学校を支える意義・必要性 — 子ども・家庭・学校の状況と課題

- 1 子どもの状況と課題
- 2 家庭の状況と課題
- 3 学校の状況と課題 — 教育改革の動向を中心に

第 2 章 地域・社会教育による学校支援の現状と課題

- 1 学校を支える社会教育の役割
- 2 社会教育による「間接的学校支援」の機能

(1) 体験活動、ボランティア活動

事業・取組の名称	チャレンジ冒険遊び事業（静岡県子ども会連合会）
事業・取組に関わる人や組織	各市町・各校区、各単子ども会 育成者・指導者
事業・取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢の子どもが様々な体験活動を通して感性やコミュニケーション能力を養うことから社会性を身につける。 ・ 川遊び・・・カヌーでの川下り 飛び込みの時に、指導者より異年齢の子ども達が声を掛けたほうが、子どもの反応に違いが見られる。 ・ 古紙回収事業 子ども会による古紙回収は子どもが地域の各家庭を廻る事で顔見知りになり、売上金は活動費として使え、コミュニケーション能力を培い尚かつ社会性が身につく。
事業・取組のポイント	<p>学校や家庭で体験活動や異年齢の人との触れ合いが減る中、子ども会の活動を通して、異年齢の多くの人と出会い、多くの人から多種多様に学び、自然に感性を身につけて自己を確立し、尚かつ、成長していく過程でコミュニケーション能力を養うことから社会性を身につけて成長していく。</p> <p>今後、地域の子どもの地域で育てる一役を担う子ども会では、PTAにC（コミュニティー・チャイルド）を加えてPTCAとして学校・地域との連携を密にする活動を目指したい。</p>

事業・取組の 名称	沼津市立沢田小学校「沢っ子塾」
事業・取組に関 わる人や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「沢っ子塾」運営委員会 金岡西部地区連合自治会長、金岡西部地区連合副自治会長 現放課後児童クラブ指導員 2 名、 元放課後児童クラブ指導員 2 名 P T A 会長、沢田小校長 ・ コーディネーター ・ 運営ボランティア（H25 年度：約 40 人） ・ 沼津市教育委員会生涯学習課
事業・取組の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象：沢田小児童（H25 参加人数：100 人） ・ 毎週月曜日の放課後（午後 2 時半から 1 時間） ・ 活動場所：学校（運動場、体育館、余裕教室）、畑、築センターなど ・ 活動内容：自由遊び、自由勉強、農業体験・料理づくり、 体験活動を通じて子ども同士並びに大人と仲良く交流する
事業・取組のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 25 年度は、全校児童 382 人中 100 人参加 ・ 参加した児童の 64%が楽しい、24%がまあまあ楽しいと回答（平成 25 年度） ・ 参加した児童の 65%が違う学年の友達が増えたと回答（平成 25 年度） ・ 参加した児童の 61%が地域の大人で知っている人が増えたと回答（平成 25 年度） ・ 学校は、定期的に地域の人や保護者が学校に来てくれる場ができ、学校と地域、保護者が顔を合わせて話をする機会が増えていると感じている。 ・ 子どもにとっては、放課後、学習や遊ぶ場が保障されるとともに、異学年の友達が増えたり、地域の大人と顔見知りになったりという成果が見られた。 ・ 地域の人にとっては、活躍の場が増え、生きがいを感じる人がいる。また、地域の子ども、学校、ボランティア同士など人の輪が広がっている。 	

事業・取組の 名称	長泉町放課後子ども教室推進事業 「長泉町のびのびスマイル事業」
事業・取組に関 わる人や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ のびスマ実行委員会 各小学校の教頭、コーディネーター、スタッフ代表者 P T A 代表者、行政職員、学識経験者

	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターは、ボランティアスタッフの取りまとめの役割などを担う ・放課後児童会と連携
<p style="text-align: center;">事業・取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長泉町内各小学校で実施 ・対象：町内小学生 ・実施日時：毎週水曜日の放課後（午後4時まで） 年間25回から30回程度実施 ・平成16年度「地域子ども教室」実施に向けた調査研究を開始 平成17年度地域子ども教室「のびのびスマイル」を3小学校で実施 平成19年度放課後子ども教室として実施 平成24年度コーディネーターを募集 ・平成26年度スタッフ53人、うち24人は放課後児童会指導員 ・事業内容 実施箇所において安全管理者のもと児童が自由に遊ぶ 全体や集団での遊びは、各小学校ごとにスタッフが検討 実行委員会を組織し、随時「放課後子どもプラン」及び「放課後子ども教室推進事業」について検討
<p>事業・取組のポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアスタッフは、純粋に子どもたちの笑顔のために、時間を割いて遊び道具の準備や出欠の確認をしてくださっている。 ・「のびのびスマイル（のびスマ）」という事業名は、子どもたちが青空の下で、のびのびと元気よく遊ぶために、地域の人たちが子どもたちの遊びや活動を見守り、安心して居場所をつくり、交流することによって、日ごろから子どもも大人も地域の中で笑顔が増え続けることをテーマとして名づけた。 ・「のびスマ」には、放課後児童会の児童、指導員も一緒に活動しているが、放課後児童会に登録している児童は、一般の児童と名札の色が違うため、放課後児童会の指導員、「のびスマ」のスタッフが一目で児童の違いを確認できるようにしている。ただし、雨天時は体育館で実施するため、安全面を考慮して別々に活動している。 ・「のびスマ」がある水曜日は、学校にとって授業終了と放課後の切り替えがはっきりしているため、特に参加者の多い低学年の先生方にとっては、事務処理、会議の時間にスムーズに移行できる良さがある。

[会議について]

- ・「ボランティアスタッフ打合せ」・・・年度初めに、登録していただいているボランティア全員に通知を出し、「スタッフ打合せ」を実施。のびスマ実施の目的、安全面での共通理解、町内3小学校のスタッフ情報交換等を行う。
- ・「のびスマ実行委員会」・・・年3回実施。上記委員と実行委員組織のあり方や運営方針、安全管理について検討している。
- ・年1回「スタッフ研修会」を実施し、他地区の運営方法を学んだり、安全意識の向上を目指したりしている。

<p>事業・取組の 名称</p>	<p>キラリ☆サマーキャンプ</p>
<p>事業・取組に関 わる人や組織</p>	<p>主催：(一般社団法人) 磐田青年会議所 共催：磐田市市民活動推進課生涯学習グループ 協力：ボーイスカウト磐田支部、磐田市社会福祉協議会、磐田リーダーズクラブ、NPO法人磐田まちづくりネットワーク、大学生ボランティア、高校生ボランティア</p>
<p>事業・取組の 概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キラリ☆サマーキャンプは、一部市の助成を受け、参加者負担、青年会議所負担で毎年、夏休み前半の金～日曜日（2泊3日）に市内で会場を変えて実施。 ・実行委員会形式のため、実行委員長が毎年変わりテーマが示される。 ・平成25年度までは、市内の小学6年生を対象に実施。平成26年度は5～6年生、平成27年度は5年生のみ。 ・事業の流れ <ol style="list-style-type: none"> 1 関係者意見交換会（実施内容説明と意見交換） 2 学生ボランティア募集→打合せ会 3 参加者募集（教育委員会）→参加者親子説明会 7月 4 実施 5 関係者意見交換会（反省会） ・プログラム <p>金曜日 午前：開会式～仲間作り活動（グループ活動） 午後：テント張り、バーベキュー、 ドラム缶風呂体験 夜の活動（キャンプファイヤーなど）</p> <p>土曜日 年度により、さまざまな現場での体験活動を実施 （職場見学体験、保育園実習体験、高齢者施設ボラン</p>

	ティアなど) 夕食作り 夜の活動（現場体験活動のふりかえりとまとめ） 日曜日 午前 テント片付け、 ① 子ども・・・子ども向けセミナー 親（迎え）・・・親向けセミナー ② 活動発表 ③ 閉会式
事業・取組のポイント ○平成 18 年度実行委員長からボランティア募集の相談が磐田市市民活動センターに入る。 ・大学生ボランティア（グループリーダー）は、青年会議所OBの子ども（学生）たちで協力してくれる人を探し、その友人を誘うようにすることを提案。 ・数年すると参加した子どもたちが高校生ボランティア（サブリーダー）として協力してくれるようになり、循環サイクルを築いていくことができる事業であることを伝える。 ○現在、大学生ボランティア・高校生ボランティアが増え、毎年楽しみにしながら協力してくれている。 ○今年度は5年生を対象にしたので、新たな課題が生まれ、青年会議所メンバーも大いに勉強になったと思われる。	

事業・取組の名称	伝統文化・技術を伝える地域イベント「第2回 伝(でん)」
事業・取組に関わる人や組織	「伝」実行委員会 吉田町住吉地区の事業所 12 社で組織。代表は本橋テープ株式会社(本橋真也社長)。
事業・取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年に続き、内容を拡大し平成 27 年 7 月 25 日(土)に開催 ・ 来場対象者は親子 ・ 吉田町住吉地区の 4 会場(本橋テープ株式会社、有限会社静岡木工、株式会社マルイチ、SLOW) において、ワークショップ形式の体験型イベントを実施 ・ その他、物品販売、飲食コーナーも開設

事業・取組のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・親子を対象に、夏休みの宿題のテーマ探し、自由研究に資するため、ワークショップ(物づくり)を中心にしたイベントを開催 ・ワークショップ=コーナー (指導者に教わりながら物づくりを行う。) <ul style="list-style-type: none"> ① (本橋テープ会場) オリジナルポーチ・オリジナルブレスレット・マイTシャツ・万華鏡 ② (静岡木工会場) 背付イス・森の家貯金箱 ③ (マルイチ会場) 木のおもちゃ・メタルクラフト ④ (SLOW会場) 竹を使ったキャンドル・フラックガーランド ・体験コーナー <ul style="list-style-type: none"> ① (本橋テープ会場) 機織り・高所作業車乗車・パワーショベル乗車・レーザーブレーキサポート乗車(乗用車) ② (静岡木工会場) 昔遊び・茶道・水鉄砲 ③ (マルイチ会場) IH ④ (SLOW会場) ヘッドスパ ・地域住民を対象としたイベントを開催することにより、各社の業務内容を理解願うことができた。合わせて地域に感謝する機会となった。また、参加事業所の社員も社会貢献の機会を得て、自己伸長することができた。 ・会社が身近な存在となり、万が一の時の駆け込み場所となることが考えられる。 ・平成28年7月23日、規模を拡大し第3回「伝」開催予定 	

事業・取組の名称	地域振興イベント・焼津市立大井川西小学校第15回街道カーニバル
事業・取組に関わる人や組織	同小学校行事を支援するため、実行委員会を組織。構成は大井川商工会、おおいがわAkindo 事業共同組合、学区の6町内会、行政など。実行委員長は大畑芳春・大井川商工会理事。事務局は大井川商工会。
事業・取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・2001年、宿駅制度制定400年を記念した「東海道四〇〇年祭」事業が実施されたが、それを契機にスタートした。 ・主な行事は1)交通安全を呼びかける「殿様道中」と2)子ども門前市(模擬店)の開設。 ・予定日は11月14日(土)、屋外開催であったが雨天順延で翌15日(日)、同校体育館で開催された。 ・殿様道中はお手製の袴を纏い、「下に 下に」の掛け声で進んだ。 ・こども門前市は、5年生が地元商店の協力を得て10店舗をオープン。 ・その他、地元町内会は赤飯など弁当、採れたて野菜を販売。

<p>事業・取組のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2001年から毎年1回開催し、今回で15回目となった。すっかり学校行事として定着し、開会前から来場者が多かった。 ・学校行事を地域の団体、事業所(商店)、自治会などが総出で盛り上げている。回数を重ねているので指導者は慣れているが、準備段階を含めると相当時間を費やしている。 ・殿様道中は同校と大井川西幼稚園児が行列の衣装を揃え、可愛く行進し、来場者から声援がとんでいた。交通安全の良き呼びかけとなっていた。 ・子ども門前市は商品仕入れ、販売方法など地域の商店の指導を得て開設した。開店に先立ち、各店の特徴、販売商品などをPRする時間が設けられ、販売のみならず、プレゼンテーションの仕方を学ぶ機会になっていた。そして、開店すると大きな声で「いらっしやいませ」などの声掛けをしていた。職業体験の場となっていた。 <p>また、店名もそれぞれ工夫し、オリジナルさを競っていた。 「そうざいKING」、「ミラクル文具」「茶茶茶園」「ジュシーミート」 「ひまわりこうぼう」「大井川港特産めぐみの味」など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども門前市はマネジメント(PDCA)を学び、実践する良い機会となっている。

<p>事業・取組の名称</p>	<p>し～すぽ×大浜学園連携事業「し～すぽで遊ぼう！」</p>
<p>事業・取組に関わる人や組織</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人掛川市体育協会（掛川市南体育館し～すぽ指定管理者） ・大浜学園（掛川市立大浜中学校区在住の小学生）
<p>事業・取組の概要</p>	<p>掛川市が推進する中学校区学園化構想（中学校区を「学園」と呼び、学校・家庭・地域が一体となり、地域力で保・幼・小・中学校の教育を支援する体制を整備する事業）の一環として、近隣の中学校区に在住する小学生を対象に、祝祭日や土日の学校が休みの日に体協が管理する掛川市南体育館し～すぽの空施設を活用した「運動遊びプログラム」を実施。</p> <p>体協と大浜学園が連携協力し、体協は施設の提供と運動指導者の手配をし、大浜学園は参加者の取りまとめと参加料の徴収を行う。 参加料：1回300円（保険料、指導者金他事務手数料）</p>
<p>事業・取組のポイント</p>	<p>地域の施設及び運動指導者等の地域資源を活用し、構想にあるとおり、地域力を活かした取組みとなっている。また、体協としても予約が入っていない空区分を有効活用してもらうことで稼働率の向上と、体育館の存在の周知と地域の子どもたちに親しみを持ってもらおうきっかけが生まれ、双方にメリ</p>

ットのある取組みとなっている。

運営に関しても、完全なボランティアではなく、少額ではあるが受益者負担を基本としている部分が特徴である。

事業・取組の 名称	磐田市中学生イベントボランティア講座 (静岡県青少年指導者認定事業<初級>)
事業・取組に関 わる人や組織	磐田市市民活動推進課生涯学習推進グループ 磐田市教育委員会学校教育課 ボランティア育成に協力する各組織 (市内NPO法人、市民活動団体、市社会福祉協議会、各種実行委員会、関係各課等)
事業・取組の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の中学3年生を対象に募集・抽選し、市内で行われる各イベントへの参加協力を通してボランティア意識を醸成する。 ・様々なボランティア活動に参加することにより、ボランティアの学習の場となり、ボランティアスキルの向上を目指す。 ・多世代との交流の場となる。 ・社会性を育てる社会教育の場でもある。
事業・取組のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・5月 開講式・研修会 ・全校共通活動と学校指定活動がある ・活動の場 (主なイベント例) <ol style="list-style-type: none"> ① 磐田ぶらり散策ウォーク、チャレンジランキング大会、ジュビロカップドッジボール大会 (磐田市子連) ② 国分寺祭り I N遠江 (実行委員会) ③ ビーチクリーン 5回 (NPO法人マリンプロジェクト) ④ ベッコウトンボコンテナ整備 (NPO法人桶ヶ谷沼を考える会) ⑤ ツインバスケットボール大会 (NPO法人磐田市体育協会) ⑥ みんなで軽トラ市いわた☆駅前楽市 2回 (実行委員会) ⑦ いわたふれあい広場、とよだふれあい広場、ふくでふれあいまつり、ふれあいまつり竜洋 (市ボランティア連絡協議会) ⑧ とよおかふるさとまつり (実行委員会) ⑨ いわたゆきまつり (実行委員会) ⑩ 新磐田市誕生 10周年記念式典 ⑪ 成人式 (各地域ごとの実行委員会) ・活動内容 	

イベント→会場準備、受付、イベント運営補助、案内補助、片付けなど
清掃活動

事業・取組の 名称	公民館寺子屋（熱海市）
事業・取組に関 わる人や組織	市内の各地域の方々、学習支援員、元教員、PTAOBが指導者となり、小学2～6年生を対象に活動
事業・取組の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市生涯学習課が主催し、市内の4箇所の公民館を活用し、寺子屋として活動。 ・夏休み、冬休みを利用し、それぞれ7日間、3日間開催。 ・前半は、宿題をはじめとする学習面を中心に、後半は体操や外遊び、外国語、書道、お飾りづくり、餅つき、楽器体験、カレー作り 等々、多岐に及ぶ内容を盛り込み、定員をオーバーするほど、人気を得ている。 ・26年度から始まり2年目の開催。
事業・取組のポイント 夏休みをはじめ長期の休み期間中、スポーツクラブや習い事に忙しい児童が増える中、時間をもてあます子どもも決して少なくない。 その様な中、地域の期待に応える取り組みの一つと言える活動が復活。 指導者は、多様なの方々。PTA役員のOBも参画。 PTA役員を経験した方々は、学校との関わりが深く、学校と家庭、そして地域を結ぶ役割を果たせる人材が多い。	

(2) 困難を有する子どもへの支援

事業・取組の 名称	中学生への無償学習支援教室事業
事業・取組に関 わる人や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人静岡学習支援ネットワーク ・静岡市子ども家庭課
事業・取組の 概要	主に、生活保護受給世帯や、ひとり親家庭の子ども等、生活困窮状態にある家庭の子どもたちを対象に、市内3カ所の生涯学習センターを利用しそれぞれ週1回、90分間、子どもたちがやりたい勉強をもってきて、大学生とともに取り組む少人数形式で学びと居場所の場をつくっている。
事業・取組のポイント 大学生が中心となり組織・運営されている。2012年5月より教室を開講し、	

活動を続けている。(2015年4月より静岡市子ども支援コンソーシアムとして静岡市生活困窮世帯、ひとり親家庭等の子どもへの学習・生活支援業務を受託)

勉強したくてもできない子どもたち一人ひとりに寄り添った学習支援を行うことで、ただ単に成績を上げることが目標ではなく、参加者自身が勉強の楽しさ、面白さに気づくことができる場を作る。そしてその上で、負の連鎖を断ち切り、より多くの子どもたちが自らの可能性を狭めることなく将来に希望を持てる社会づくりに貢献する。

年齢の近い大学生が子どもたちと接することで、お兄さん、お姉さんのような気軽に相談できる存在となり、また大学生が子ども自身にとってのロールモデルのような存在となるような存在になることを目指している。

<p>事業・取組の 名称</p>	<p>富士宮市ホースセラピー事業</p>
<p>事業・取組に関 わる人や組織</p>	<p>一般社団法人エヘガザル富士山牧場が市のホースセラピー事業として行う活動。 <u>教育委員会学校教育課</u>：・特別支援学級のある小学校5校（1年生全員と6年までの支援級児童）：支援級担任・1年生担任・教頭先生等。 ・中学校は支援級のみ5校：支援級担任・教頭先生等。 ・通級学級に通う児童、生徒対象：通級学級の担任、学校教育課の担当者 <u>教育委員会社会教育課</u>・青少年相談センター（不登校児童・生徒）：センター長と職員 <u>保健福祉部・療育支援課</u>・療育センターと障害を持つ子の保育園：センター長と職員 保育園園長と職員</p>
<p>事業・取組の 概要</p>	<p>日本は少子高齢化の世界最先端国で子どもが少ないのに、虐待が増え続け、小・中学生の不登校、子どもの暴力（特に小学校低学年）も増え、発達障害の子どもも増えている。「読書と読み聞かせ推進事業」の一つとして、小中学校で昔話を語り、本の紹介をする中、運営がむずかしいクラスが増えている現状を見てきた。子育ての環境が変わり、子どもは乳幼児の時期から体験不足となり、戸外で心身を充分使って遊ぶ場所も時間も友達も減少し、代わりに一人で長時間遊べる電子メディアが広がっている。多様なメディアとの付き合いは、子どもが自分で時間や内容をコントロールするのは難しく、疲労が脳に蓄積し、</p>

	回復に相当な時間とエネルギーが必要となる。2006年から4頭のポニーで馬介在教育・療育牧場を開設（現11頭）し、今年10年目をむかえた。子どもはスタッフの話を聞き、それを自分で馬に伝えると馬はきちんと動く。姿勢の保持、バランス感覚、揺れによる全身の運動など心身ともに元気になる。
<p>事業・取組のポイント</p> <p>子どもたちの年齢や、乗馬経験の回数などにより、プログラムを変える。年齢が低い子は、基本は引き馬で乗る。経験がある年長児は、引き馬で速歩（はやあし：小走りに走る）や、馬に乗ってゲームをする。支援級の小・中学生は馬上体操をし、毎回違ったプログラムを実施。特に大事にしていることは、「ホースセラピーをするのなら、馬をセラピーホースにしておくこと」である。穏やかで人と仲よくなれる馬の馴致に力を入れている。子どもたちはさまざまなストレスを抱えており、乗馬をすることで、馬の上下、前後、左右の不規則な揺れが脊髄を通して脳に働きかけ、セロトニンのようないい神経伝達物質を出すことなどから、自己肯定感が芽生え、人との関係作りにも気付きが出て、行動の変化が見られる。障害を持つ子の生きにくさの軽減と同時に、健常な子どももストレスを抱えているので、ホースセラピーは、すべての子ども（も大人も）と学校を支えることの一助を果たし得ると思っている。</p> <p>市の事業とは別に、多くの子どもが乗馬を楽しんでいるがもっと広くすすめたい（県内東・中・西各1カ所など）。低額での運営のため、経営的には大変苦しい状況のため、寄付のシステムを構築したいと思う。</p>	

事業・取組の名称	リトルワールドキャンプ12
事業・取組に関わる人や組織	Little World Camp 実行委員会（静岡県立大学公認サークル）
事業・取組の概要	静岡市南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家にて、2泊3日でキャンプ
<p>事業・取組のポイント</p> <p>静岡県は、在日外国人、特に日系ブラジル人の多い県として知られ、さまざまな文化をもつ人々と共に生きていくことが課題となっている。しかし、日本人である私たちと、在日外国人の方々とは、接触する機会が多くなく、お互いの文化を十分に理解できていないのが現状です。そこで私たちは、さまざまな文化をもつ人々が共に生きることができる静岡県をつくる為に、「多文化共生キャンプ Little World Camp」を企画・運営している。</p>	

(団体ホームページ リトルワールドキャンプ 12 報告書 より)
 2003 年より活動を続けて、今年度で 12 回目となる。
 今年度のキャンプでは、参加者は、小学 4～6 年生 38 名(うち外国にゆかりのある子ども 17 名)、大学生スタッフ 36 名、通訳 1 名、顧問 1 名、のべ 76 名が参加した。キャンプでは、1 日目にはじめましての会・運動会・キャンプファイヤー、2 日目にウォークラリー・野外炊飯・レクリエーション、3 日目にワークショップ・お別れの全 8 プログラムを行った。また、今回のキャンプでは企画段階で「みんなはおなじ」というテーマを設定し、3 日間で子どもが自分との相違点ではなく共通点にたくさん気付くキャンプにするためのプログラムを学生自ら考えた。

(3) 家庭教育支援

事業・取組の名称	読書と読み聞かせ推進事業（富士宮市社会教育課）
事業・取組に関わる人や組織	富士宮市社会教育課担当者 富士宮市市民読書サポーター（21 名）
事業・取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園、幼稚園、小中学校、高校での読書活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> ① 幼児、児童、生徒への読み聞かせ、語り、ブックトーク ② 保護者（PTA、ボランティア、家庭教育学級、子育て支援センター）への講話 ・ 子どもの本に関わる講座（絵本講座、子どもの本の講座）の開催 ・ 「子どもの本のセミナー」、読書推進講演会の開催 ・ 活動推進体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ① 市民読書サポーター研修会（月 1 回） ② 市民読書サポーターだより、推進事業ニュースの発行 ③ 市民読書サポーター会議（企画運営、情報交換） ④ 関係団体との連携（学校、学校教育課、市立図書館、保健センター、市民読書推進サポーター） ・ 「子ども読書活動推進会議」の開催
事業・取組のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本姿勢 子ども心の成長にとって、読書は欠かせないものとする。本にも活動にも質が大切である、という姿勢を持ち続けること。趣味の会でも、自己実現のための会でもなく、「子どもを育てる」という自覚と責任をもって取り組んでいる。

- ・学校で、直接子どもに向けて、読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークを行うだけでなく、子どもに関わる大人（保護者、保育士、教員）に、質を考えた読書の大切さを伝えていく。「耳からの読書」耳から言葉を聞かせてあげることの大切さを伝える。
- ・落ち着きがなく、問題行動のめだつ学年で、朝読書の時間に全クラスで、物語を語る試みを月1回2年間行った。先生方から生徒指導の面で成果があったという評価を得た。現在も回数は減ったが続いている。物話を集中して聞く体験が心を落ち着かせる。
- ・15年継続してきた結果、公民館が独自に「読み聞かせ講座・パパと一緒に！」という、絵本と親を繋ぐ企画を考えたり、市P連研修部がPTA活動として、児童書を読む読書会を立ち上げたり、中学校で学社融合の事業の一つとして、読書を取り上げたりと、市の「読書と読み聞かせ推進事業」の枠をこえた周りへの広がりが見られる。（上記の講師などは、市のサポーターが担当）
- ・小中学校の先生方の私的な勉強会で、松本なお子氏や清水真砂子氏の講演を聞く会を開催。（講師の選定、依頼について読書サポーターが協力）先生方への理解が広がる。
- ・「中学生の保育園でのボランティア事前研修会」で、絵本の選び方、読み方などについて、中学生に話をするが、小学校の頃に読み聞かせをしてもらった経験が生かされ、積極的に楽しんで取り組む様子がみられる。やがて親となる中学生にとって貴重な体験となる。世代を超えて継承されていくことに希望が持てる。

(4) 地域教育力の向上

事業・取組の名称	「長泉わんぱく通学合宿」
事業・取組に関わる人や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会（団体、個人に呼びかけた個人有志の集団として組織、町内3小学校PTA役員、前年度PTA役員等） ・ ボランティアスタッフ約30人 子ども見守り隊、PTA有志、長泉イチゴ会、地域住民、少年の旅、新旧PTA会長、ボーイスカウト、ガールスカウト、婦人会、生涯学習団体有志、交通安全指導員（裾野警察署）、小学校教員
事業・取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木曜から土曜日の2泊3日で町内4年生以上の小学生30人 ・ 実施箇所：毎年3小学校区をローテーション ・ 事業内容

	公民館など地域の宿泊可能な施設を拠点に、年齢の異なる子どもたちが共同生活しながら登下校する 実行委員会を組織し、具体的内容を検討する
事業・取組のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人が夕食の調理、工作体験の講師を行ったり、自由時間に子どもたちとカルタなどの昔遊びで交流をしたりしている。 ・ 主に地域の公民館で事業を実施しているが、宿泊場所は、児童が通学できることや耐震対応が前提となるため、宿泊できる場所が限られることが課題となっている。 ・ 地区、校区を問わず児童を募集し、町内3小学校の交流を育むことが可能な事業である 	

事業・取組の名称	掛川市学園化構想における冀北学園の取組
事業・取組に関わる人や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北中学校区子ども育成支援協議会 ・ 北中学校、城北小、西郷小、倉真小 ・ 掛川中央幼保園、三笠幼稚園、葛ヶ丘保育園 ・ 地域
事業・取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掛川市学園化構想の下、北中学校区は「冀北学園」とし、その中に「北中学校区子供育成支援協議会」を設けた。推進委員には冀北学園内にある5地区すべての、区長会長や福祉協議会長など、様々な組織に入ってもらった。 ・ 主な活動は、園・学校からの依頼に基づき、地域の人材をボランティアとして探して提供すること。 ・ 統括コーディネーター1人とサブコーディネーター5人を設けた。サブコーディネーターは5地区の地区センター長が兼任しており、これによって地区内の情報が詳しく迅速にわかるようになった。統括コーディネーターが事務作業や広報活動、学校との連絡調整をすべて引き受けることにより、サブコーディネーターは自治区での人材発掘に専念することが出来、とかく大変だと言われているコーディネーター業務が負担軽減されていると考えられる。 また統括コーディネーターが学園内すべての活動を把握していることにより、小学校間や学園内で横の情報が伝わりやすく、活動の幅が広がっている。 ・ 忙しい先生方が、人材発掘・連絡・調整に時間を取られず

	<p>学校の業務に専念できるようにサポートしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 敷居が高くて入りにくいと言われる学校内へ地域住民が入ることにより、園・学校と地域の関係が密になる。 <p>〈広報活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報誌「冀北学園だより」を年4回ほど発行。 ・ イメージキャラクター「きほくま」を作り、広報活動に活用。 <p>〈啓発運動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ運動 3小学校へ、中学生や地域の方が出向き、朝のあいさつ運動をする。 ・ 「冀北の教え 5 か条」を設け、毎月項目を決めて実践報告をしてもらう。概要は「冀北学園だより」にて紹介。 ・ 冀北学園のつどい 年に1度開催。 3小学校の合唱、中学生の合奏、3幼稚園の発表。 地域全体が対象
--	---

事業・取組のポイント

掛川市学園化構想＝中学校区を一つの学園としてとらえ、中学校区内にある保幼小中と地域が一丸となって子供を育ていこうとする、掛川市独自の取組。掛川型CSともいえる。

事業・取組の名称	地域の青少年声掛け運動（伊東市）
事業・取組に関わる人や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伊東市生涯学習課 ・ 協力団体（幼稚園、保育園、幼稚園・保育園父母の会、市内小・中学校PTA、市内小学校児童会、市内中学校生徒会、伊東高校生活改善委員会など） ・ 市民
事業・取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回（7月と11月）、市民一斉の活動としてあいさつ運動を実施。 ・ あいさつを通じた人づくり、地域づくり、まちづくりを目指している。 ・ 7月と11月の1週間前に、キャンペーンとして、ショッピングセンターで周知活動を行っている。 ・ 伊東駅前毎月1回、第1水曜日に協力団体があつまり、

	<p>あいさつ運動を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園、保育園、小・中学校、高校を中心に、各区の協力を得て、一斉にあいさつ運動を実施。 ・ 生涯学習課が「あいさつ運動瓦版」を作成、配布 ・ あいさつ標語を募集して、市民からあいさつのよさを発信 ・ 伊豆東海バスに依頼し、一斉活動の日に、「伊東市あいさつ運動実施中」と方向幕に表示
<p>事業・取組のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11年続いており、数年前に比べ、子ども達があいさつをするようになった。 ・ 小学生が幼稚園に来てあいさつすることで、お互いよい刺激になっている。 ・ 生徒会役員が協力して地域に出て活動姿が見られるなど、子ども達の成長する姿や地域の連携が深まっている。 ・ 生涯学習課の作成する「あいさつ運動瓦版」には、「あいさつちよっといひ話」として、協力団体の報告書に書かれたコメントを掲載するなど市民が参加・参画する気運を高めている。 ・ あいさつ運動の表示をしているバスに小学生が手を振るなど、地域全体であたたかい取組になっている。 	

<p>事業・取組の名称</p>	<p>防災訓練（磐田市）</p>
<p>事業・取組に関わる人や組織</p>	<p>磐田市自治会連合会豊田支部、磐田市消防団豊田方面隊 いわた女性防災クラブ、青少年健全育成会豊田支部、豊明会 災害ボランティアコーディネーター「チーム豊田」 磐田国際交流協会豊田日本語教室 中学校（2校）・小学校（4校）の指定避難所、中学生、小学生、 いわた減災ネットワーク連絡会（H27.4 設立）協力</p>
<p>事業・取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊田地域全体（旧豊田町）が、地域としての意識も高く、合併以前から地域の様々な団体と連携のもとに活動、訓練が積み重ねられてきている。 ・ 訓練内容の構成が明確である。 <p>① 一次訓練・・・単位自治会 小学生→水消火器での消火訓練体験をしている自治会有 中学生→リーダー研修会、炊き出し、放水、ろ過、可搬式ポンプ操作訓練、AED、三角巾応急手当など</p> <p>② 避難所運営訓練</p>

	<p>中学生→役割（８種）の確認と状況報告の確認等 避難者受付、ボランティア受付、救援物資受付・配布、炊き出し訓練などの補助 避難所内の居住区設定訓練</p>
<p>事業・取組のポイント それぞれの訓練で、外国人を交えた訓練となっている。言語が伝わらない部分は、実際の活動実践が一番役立つことになる。 「計画→実践→振り返り→改善」が各種団体の連携協力のもとに行われてきている。他地区のモデルとなるような活動実践が多い。</p>	

3 地域・社会教育による学校支援の現状

(1)「熟議」にかかわる支援

<p>事業・取組の名称</p>	<p>掛川市立西中学校 親子で「いじめ追放」を宣言しよう ～「PTA いじめ追放宣言」の採択 家庭・地域・学校が連携していじめをなくそう～</p>
<p>事業・取組に関わる人や組織</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掛川市立西中学校 生徒会本部・3年生 ・ 西中PTA本部・PTA会員
<p>事業・取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒による「西中いじめ追放宣言」唱和 ・ PTA会員による「PTA 西中いじめ追放宣言」唱和
<p>事業・取組のポイント 平成7年度から西中ではいじめをなくそうと「西中いじめ追放宣言」を生徒会員全員で採択し、以来20年間にわたり、この取組を大切に引き継いできている。こうした生徒たちの取組を受け、いじめ追放は学校だけでなく、家庭の取組も必要だと考え、平成25年度から、PTA本部「PTA 西中いじめ追放宣言」を出し、PTA総会で採択している。 PTA活動として、家庭教育を考える取組やPTAのOBによる「相談窓口」を実施しており、さらには、家庭における子どもへの声掛けを積極的に行っていく取組につなげていきたいと考えている。 昨年度は、学区の3小学校でも「小学生版 いじめ追放宣言」を実施しており、今後、いじめ追放宣言を地域に広げ、地域ぐるみの活動に展開していきたいと考えている。</p>	

(2)「協働」にかかわる支援

<p>事業・取組の名称</p>	<p>長泉町 学校支援地域本部事業</p>
------------------------	-----------------------

<p>事業・取組に関わる人や組織</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校支援地域本部（1） ・ 地域コーディネーター（各校1名） ・ 学校支援ボランティア ・ 地域の人 ・ 教職員 ・ 長泉町教育委員会生涯学習課
<p>事業・取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長泉町内全小・中学校で実施 ・ 事業内容 <ul style="list-style-type: none"> 主に学習活動（放課後や長期休暇時） 授業についていけない児童生徒の取り出しによる指導 高校受験を控えた生徒に対する補習 総合学習の中の地域の人材から学ぶキャリア教育支援 小学校における外国人児童への継続的な日本語指導 家庭科授業の補助 学校の環境整備 <ul style="list-style-type: none"> 学校菜園の耕し、学校花壇の整備、草取り、苗の植え付け、グリーンカーテンの設営 ・ 毎月、教育委員会、地域コーディネーター等が打ち合わせを行い、各学校間の取組などの情報交換
<p>事業・取組のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 20 年度から長泉中学校でスタートし、その後、平成 24 年度から町内全小中学校に拡大して実施している。 ・ 学校支援地域本部は、町全体で1つの本部体制としており、各校1名のコーディネーターを配置し、現在、約 140 名がボランティア登録されている。 ・ 学校支援地域本部事業を周知するため、年度末に「地域の学校応援団!!」という長泉町学校支援地域本部だよりを発行し、全戸配布しており、その際ボランティア登録票を添付し、ボランティア登録を促進している。 	

掛川市学園化構想における冀北学園の取組（再掲 P. 62）

読書と読み聞かせ推進事業（富士宮市社会教育課）（再掲 P. 60）

<p>事業・取組の名称</p>	<p>「運動部活動指導の工夫・改善支援事業（女子生徒の参加しやすい運動部活動づくり等の多様な運動部活動づくりに向けた指導内容・方法の工夫改善の実践）」</p>
<p>事業・取組に関わる人や組織</p>	<p>県教育委員会スポーツ振興課 総合型地域スポーツクラブ、実践校 など</p>

事業・取組の概要	目的 県教育委員会は地域のスポーツ関連団体等と連携し、指定した実践校等（以下、実践校という。）に外部指導者を派遣することや、総合型地域スポーツクラブ等と連携し、女子生徒の参加しやすい運動部活動づくり等の多様な運動部活動の形態についての実践研究を行う。
事業・取組のポイント 現在、高校運動部活動で女子高校生の 25%が参加しているが、残りの 75%は学校の授業以外にはスポーツなど運動する習慣がない状況であるので、運動習慣がない人でも馴染みやすかったり、楽しみやすいものを選択する。 また、地域でできるスポーツ、レクリエーションなど身近で地域活動できるスポーツや社会に出て利用できるものを紹介する。 実践されているスポーツ・レクリエーション競技 ヨガ、エアロビック、ディスクドッチ（フライングディスク）、スポーツ吹矢、ピラティス、ダンス、フーバ（福祉バレー）、護身術（空手道）	

事業・取組の名称	静岡県PTAサポーターズ
事業・取組に関わる人や組織	静岡県内のPTA役員及びOB
事業・取組の概要	静岡県PTA連絡協議会では、現役のPTA役員はもちろん、任期が終了した役員の人材を最大限に活用すべく、現役PTA役員が進めるPTA活動とOBの連絡調整機関、また様々な活動を支えるコミュニケーションの場として、「静岡県PTAサポーターズ（略称Pサポ）」を平成27年度に発足した。 県教育委員会と連携して、家庭教育支援員の養成や携帯・スマホアドバイザーの養成に、県内各市町より約30名が講座に参加中。
事業・取組のポイント PTA役員を経験した方々は、学校との関わりが深く、学校と家庭、そして地域を結ぶ役割を果たせる人材が多い。また地域でも何らかの役割を担っている方々も多い。そのような貴重な人材をPTA会員やPTA役員の任期終了後もつなぎとめ、日頃のコミュニケーションを果たすことを目的に、かつ様々な活動に協力する人材バンク的な役割を含め、「Pサポ」として組織化した。	

(3) 「マネジメント」にかかわる支援

事業・取組の名称	牧之原市スクールソーシャルワーカー配置事業
事業・取組に関わる人や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牧之原市教育委員会、中学校、小学校 ・ スクールソーシャルワーカー 2名
事業・取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働き掛け ・ 関係機関等とのネットワークの構築・連携・調整 ・ 学校内におけるチーム体制の構築、支援 ・ 保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供 ・ 教職員等への研修活動 ・ その他市教育委員会、配置された学校の校長が必要と認める業務
<p>事業・取組のポイント</p> <p>課題を抱える子どもの背景には、成育歴や、家庭や学校、地域社会など、その子どもを取り巻く環境の問題が複雑に絡み合っている場合が多く見られる。</p> <p>スクールソーシャルワーカーは、教職員や関係諸機関をつなぎながら問題解決に向けたチームづくりを進め、困難を抱えている子どもや保護者の背景を理解した上で、チームによる支援をマネジメントする。</p> <p>学校と関係機関との連携が必要な場合は、スクールソーシャルワーカーがつなぐ役割を担い、スムーズな機関連携が行えるよう支援をおこなう。</p> <p>牧之原市においては県の事業を引き継ぎ、市単独事業になってからもスクールソーシャルワーカーを学校に配置している。その結果、以下2点の成果があがっている。</p> <p>「チーム対応」の必要性を実感する小中学校が増えており、チームでの関わりが実施できる態勢が各校で整えられてきている。</p> <p>教職員ひとりひとりにスクールソーシャルワーク的視点や手法の有効性の理解が浸透してきた結果、学校が組織として向上している。</p>	

4 学校支援の課題

第3章 求められる学校支援の方向性

1 社会教育の視点からみた学校支援の在り方

磐田市中学生イベントボランティア講座（再掲 P. 56）

沼津市立沢田小学校「沢っ子塾」（再掲 P. 50）

長泉町放課後子ども教室推進事業「長泉町のびのびスマイル事業」

（再掲 P. 50）

2 「学校を支える地域活動」の視点でとらえる社会教育

事業・取組の名称	富士市立高校市役所プラン
事業・取組に関わる人や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・富士市立高校 企画研究課 ・富士市役所 ・富士市教育委員会、富士市立高等学校教育推進室 ・大学、小中学校、企業、地域の諸団体（授業プログラムの協力者）
事業・取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・富士市立高校教員から富士市教育委員会に転籍したコーディネーターが、指導主事として事業の企画・実施を担当。総合学習の時間を「探究学習」とし、3年間5単元を学習。2学年前期の地域探究としての取組が「市役所プラン」 ・生徒は市から辞令を受け、環境課など複数部署に配属。職員による市役所の役割や市の現状の講義、現場での調査がある。半年に渡り生徒が調査、議論し、課題の解決策を考える。
<p>事業・取組のポイント</p> <p>富士市立高校は、2011年に市立吉原商業高校から改編され、「コミュニティ・ハイスクール」を目指すべき学校像として設立された。この学校像ならびに「自律する若者」という生徒像を実現するため、同校教員から富士市教育委員会に転籍した眺野大輔氏を中心に、市役所および地域の諸団体からの支援を受けながら、市役所プランを企画・実施している。</p> <p>キャリア教育としての市役所プランは、高校生ではあるが地域住民の一人として、地域課題とその現状を知り、その解決に向けて自ら行動する力を育成するもので、高校生を地域社会の重要な構成員として位置づけている。</p> <p>この取組は、地域と生徒たちに以下のような期待・変化をもたらしている。</p> <p>＜地域の期待・変化＞</p> <p>地域の課題を自分ごととして考える生徒の姿に刺激を受け、市民の意識に変化の兆しがみられる。地域の団体から参加要請、市の事業への参画要請がきている。</p> <p>＜生徒たちの変化＞</p> <p>地域の課題を理解し、解決しようとする姿勢だけでなく、働く大人たちの仕事の難しさや重要性まで理解する、キャリア教育となっている。</p>	

3 静岡県における地域の学校支援施策について

(1) 学校支援地域本部、放課後子ども教室等の事業の方向性

(2) 新たな人材の掘り起しと活用

事業・取組の名称	富士市における青少年指導者の養成と活用
事業・取組に関わる人や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県教育委員会社会教育課 ・富士市教育委員会社会教育課 ・NPO法人富士川っ子の会（富士市） ・富士市青少年指導者の会ふじまる
事業・取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「青少年指導者の会ふじまる」について <ul style="list-style-type: none"> ・ 富士市教委主催事業「青少年の船(～H24)」の事業効果を問われ、地域に還元できるように、過去参加者を集め、設立。 ・ 小学生対象の遊び塾等を主催。 ・ 指導者ミーティング（月1回）には、市職員も参加、助言。 ・ 富士市は、『青少年指導者養成講座』を実施し、本講座で養成した指導者がふじまるに入会できるシステムを構築。さらに、市及び市教委主催の事業に、ふじまるの指導者がボランティアとして参加するなど、市と団体が連携。 ○ 「NPO法人富士川っ子の会」について <ul style="list-style-type: none"> ・ 本会前身である「富士川っ子エコクラブ」（H14～富士川町で設立）は、富士市合併後、法人化を進めるとともに、高齢化等の理由から今後の活動継続について市に相談。 ・ 相談を受けた中・上級指導者資格を有する市職員が中心になり、一市民として、会を存続し新たな事業を開始。 ・ 「ふじかわっこ！遊び塾」（年間12回）、「かわっこカフェ」（月2回）を主催。 ○ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 富士市主催『青少年指導者養成講座』をはじめ、富士川っ子の会・ふじまるが主催する事業についても、青少年指導者級別認定事業（県事業）になっている。 ・ そのため、遊び塾等に参加した子供たちが、将来的に地域の青少年活動を支える指導者の一人として活躍するという「循環」が生まれている。
事業・取組のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富士市では、社会教育課と様々な団体が連携しながら、子供の居場所づ

くりや、豊かな人間性を育むという、共通した理念のもと、様々な事業が展開されている。

- ・ 青少年活動が盛り上がっている富士市の取組は、青少年指導者を支える市の体制、関係機関との連携の仕方、青少年指導者による事業の企画・運営等、指導者の養成と積極的な活用が図られている。

公民館寺子屋（熱海市）（再掲 P. 57）

中学生への無償学習支援教室事業（再掲 P. 57）

（3） 静岡県独自の課題・テーマ設定

事業・取組の 名称	南伊豆中学校区防災キャンプ
事業・取組に関 わる人や組織	<p><実施主体、関係団体等> 南伊豆町教育委員会、陸上自衛隊、消防署、地域防災委員、地区長、南伊豆中学校職員、南伊豆中学校生徒</p> <p><参加人数> 106人（うち中学生41名）</p>
事業・取組の 概要	<p><実施場所> 南伊豆町立南中小学校体育館及び運動場</p> <p><実践プログラム> HUG 訓練、土嚢づくり、炊き出し訓練、避難所宿泊体験、非常食体験、消火訓練、応急救急訓練、心肺蘇生法学習</p> <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の避難所となる南伊豆中小学校を会場に、地域住民や行政、学校が連携して開催。 ・ 陸上自衛隊による土嚢づくりや、協力して炊き出し訓練などを実践。 ・ 中学生や町の災害ボランティア、地区長が7つのグループに分かれて、避難所運営ゲーム（HUG）を体験。様々な事情を抱えた避難者をどのように配置するかということや、次々と起こりうる状況にどのように対応するかなど、中学生と地域の人と一緒に考える学習を実施。

事業・取組のポイント

- ・ HUGを通して、避難所運営の難しさを実感し、災害時には多くの人に関わり協力する必要があるということを参加者全員が痛感した。
- ・ 防災という地域の課題に対して、地域全体で取り組むことができ、また、子どもたちが地域の一員としての自覚を持つ機会になった。
- ・ 避難所での宿泊を伴う体験により、防災について実践的に学ぶ機会となるとともに、中学生と地域住民の連携強化や防災意識の向上につながった。
- ・ 参加した地域住民からは、中学生と防災について話し合いをもつ良い機会となったという感想があった。

<p>事業・取組の名称</p>	<p>田子浦中学校校区防災キャンプ（富士市）</p>
<p>事業・取組に関わる人や組織</p>	<p><実施主体、関係団体等> 富士市社会教育課、市内中学生（11校）、市内高校生（中学生の支援者として）、山岳救助隊、富士山砂防事務所、地域防災指導員、子供会、社会福祉協議会 <参加人数> 80名（うち中学生51名）</p>
<p>事業・取組の概要</p>	<p><実施場所> 富士市役所、田子浦荘 <実践プログラム> 防災基礎講座、富士山講座、防災資機材学習、宝永山見学（富士山学習） <概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富士山の噴火を想定し、溶岩流などの災害について学ぶ富士山講座や、宝永山を見学し、富士山の歴史について学ぶなど、地域の特性を踏まえ、富士山学習に特化したキャンプを実施。 ・ 山岳救助隊、富士山砂防事務所、地域防災指導員などが中学生を支援し、様々な体験プログラムを実践。 ・ 参加した中学生が、このキャンプでの経験を活かし、「ふじのくにジュニア防災士」として地域活動に貢献してくれることを期待している。 ・ 高校生も支援者として参加。 <p>※ふじのくにジュニア防災士</p>

	防災の知識があり、東海地震などの大規模災害発生時に、地域の人たちの防災活動を手伝うことができる小・中学生であることを認める県の制度。
事業・取組のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災に関する正確な知識や技術を学ぶとともに、学生のリーダー（ジュニアリーダー）となる人材や地域防災の担い手を育成している。 ・ 地域の特性にあったプログラムを地域の様々な団体や人が協力して実施することで、地域プラットフォームの形成を進めている。 ・ 市内の各中学校から参加を募り、ふじのくにジュニア防災士を養成することにより、防災活動を各地に広げるとともに「自助」「共助」の充実・強化を図っている。 ・ 高校生も支援する側として関わっており、中学生に地域の一員として関わる自覚や役割を示すこともできている。 <p>※ジュニアリーダー 子供会を中心に地域活動を行う青少年たち。県内約 700 人のうち約 360 人が富士市に在籍。</p>	

リトルワールドキャンプ 1 2 （再掲 P. 59）

ホースセラピー事業（再掲 P. 58）

事業・取組の名称	「障害児参加のスポーツクラブの実例」
事業・取組に関わる人や組織	総合型地域スポーツクラブ『Fuji Tennix(フジテニックス)』 代表者、公認ソフトテニス指導員 日置 至誠(ヒオキシセイ)
事業・取組の概要	知的障害を持ったこどもへのソフトテニスの指導
事業・取組のポイント <p>フジテニックスは平成 19 年 4 月に静岡型地域スポーツクラブとして自身も優秀なプレーヤーである日置さんが活動を始めた。また、指導者としても優秀なソフトテニスプレーヤーを育てている。障害を持ったこどもはスポーツ活動をする機会が少ない中、開設当時から、日置さんは毎週土曜日午前中に活動場所を提供し、指導を継続している。一時期は障がいを持ったこどもと健常のこどもが同時に練習をしていた。ソフトテニスをすることによって精神的、身体的に発達し、社会的環境に馴染み成長した。こどもたちは学校を卒業すると同時に一般企業に就職し、その後もソフトテニスを継続的に行っている。</p>	

事業・取組の名称	地元企業による県立特別支援学校生徒の会社見学受入
事業・取組に関わる人や組織	(学 校) 静岡県立吉田特別支援学校 (受入企業) 本橋テープ株式会社 (榛原郡吉田町住吉)
事業・取組の概要	① 昨年(平成27年9月3日)に続き、平成28年6月1日(水)に実施。 ② 見学者は同校高校1・2年工芸班生徒13名。教諭5名。 ③ 最初に社長より会社の説明をし、質疑応答を行った。次に社長の案内で本社内にある加工課(細幅テープのカット、加工を行う部門)の見学。最後に牧之原工場(牧之原市細江)に移動し、細幅テープの製造工程を見学。
事業・取組のポイント (1) 本橋テープ株式会社では、数年前から障害者支援に取り組んできた。主な取組みとしては、 ① 障害者施設(就労継続B型事業所)に細幅テープを使ったポーチ、ブレスレットなど商品の加工委託を行っている。(吉田特別支援学校にも同様の加工委託をお願いしている。) ② 県立特別支援学校の職場実習の受入。(本年も高等部2年生1名を6月27日から7月8日まで10日間受入する。) (2) 今回の会社見学も障害者支援の一環として、昨年に引き続き受入した。 (3) 特別支援学校側としては卒業生の就職支援として、会社見学を通して社会人となるための基礎知識を学ぶ場としている。 (4) 質疑応答では、学校で予め学習し準備した質問、「社長の仕事は？ 仕事は楽しいですか？ 仕事をしていて嬉しい時は？ 仕事をするのにどんな資格が必要？ 勤務時間？ どの色のテープが一番売れる？ 人気の商品は何？ 工芸班の仕事のアドバイス？」をそれぞれ出し、社長が一つひとつ丁寧に回答。生徒はその都度、頷いていた。 (5) 障害者が社会に出て、可能な範囲で自立するためには、様々な社会体験が必要。地元の企業がこうした場を用意し、積極的に受け入れすることが肝要である。 (6) 社長や幹部社員が率先して会社見学等を受入することによって、社員の障害者支援の機運を醸成できる。そして将来、障害者を雇用する時もスムーズに受け入れができる。	

第4章

1 地域プラットフォームによる学校支援

(4) 地域プラットフォームを機能させるために一行政への提言

事業・取組の名称	放課後児童クラブ「ふぞくASクラブ」
事業・取組に関わる人や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・常葉大学教育学部附属橘小学校 ・AS指導教員、学校職員、学生ボランティア等
事業・取組の概要	<p>通常授業日においては、年間利用契約を結んだ家庭の児童を中心に、1～3年生を受け入れている（利用児童の兄弟姉妹や特別な事情のある場合は、4年生以上も利用可）。1日利用も可能で、毎日30～40名の児童が宿題や自学、集団活動・遊び、読書・パズルなどの活動を行っている。開設時間は、授業終了から午後6時まで（お迎えは午後6時30分まで）。</p> <p>長期休業期間においては、午前8時より午後6時まで開設し（午前7時30分から受付、午後6時30分までにお迎え）、夏休み・冬休み期間ともに、60名程度の利用希望がある。</p>
事業・取組のポイント	<p>私立小学校が、保護者のニーズに応える形で、独自に放課後児童クラブを開設・運営している事例である（平成27年4月開設）。仕事の関係などで、放課後や長期休業中に子育てができない家庭を支援している。</p> <p>校内の安心安全な環境で、経験豊富な指導担当スタッフと学生ボランティアにより、宿題や自学等、学習習慣の定着を図るための補助指導を行っている。</p> <p>夏休みなどの長期休業期間中も開設し、保護者をサポートするほか、社会見学、体験学習、施設訪問など、校外での活動も行っている。</p>

2 ライフステージにそった循環型支援体制の構築

(1) 学校支援の取組で育った人材が学校支援に関わるサステイナブルな地域社会へ

富士市における青少年指導者の養成と活用（再掲 P.70）

事業・取組の名称	しきじ土曜倶楽部（磐田市）
事業・取組に関わる人や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・磐田市富岡地区有志 ・静岡大学教育学部

<p>事業・取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「しきじ土曜倶楽部」（磐田市）は、豊岡地区の有志が学校完全5日制導入を機に「子供たちの受け皿を作ることを目的とした事業 ・地域の教育力を高め、若い子育て世代にとって魅力ある地域を作ろうという熱意から生まれた活動で、磐田市との合併後も続く地域をあげての取り組み
<p>事業・取組のポイント</p> <p>平成14年度の学校完全5日制導入に際し「子供たちの受け皿を作りたい」と始まった事業で、静岡大学教育学部の支援もあり、その後10年以上に及ぶ地域との連携が始まる。毎年約30名の学生が地域住民と協働して子供たちの学習、体験活動等を支援している。</p> <p>この地域は、地域の次世代を担う子供たちを地域全体で育てる「敷地教育」の伝統を受け継ぐ地域である。「しきじ土曜倶楽部」は、地域の教育力を高め、若い子育て世代にとって魅力ある地域を作ろうという熱意から生まれた活動で、磐田市との合併後も続く、地域をあげての取り組みである。</p>	

<p>事業・取組の名称</p>	<p>みつかわキッズ（袋井市）</p>
<p>事業・取組に関わる人や組織</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・袋井市立三川公民館 ・三川小学校、同PTA、袋井市教育委員会 ・三川地区自治会連合会、子ども会
<p>事業・取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三川公民館を拠点とした子どもの体験活動支援プログラム ・活動内容は多岐にわたり、異年齢の子どもたちが集団で活動すること、高齢者とスポーツや伝承事業、地域のおとなとのふれあい交流活動を支援している。
<p>事業・取組のポイント</p> <p>公民館を拠点にしがながらも、小学校、PTA、自治会連合会、袋井市教育委員会、子ども会、老人クラブ、青少年健全育成会、成人学級、食推協などの代表からなる運営委員会を組織している。</p> <p>地域における多様なパートナーとの協力支援体制を構築したうえで、多種多様な活動を展開しており、異年齢集団の中での育ち、多世代交流による伝承など、地域ぐるみで子どもの体験活動を支える体制ができている。</p> <p>※「みつかわキッズ」を中心とした取組により、三川公民館は平成17年度の文部科学大臣・優良表彰館に選定されている。</p>	